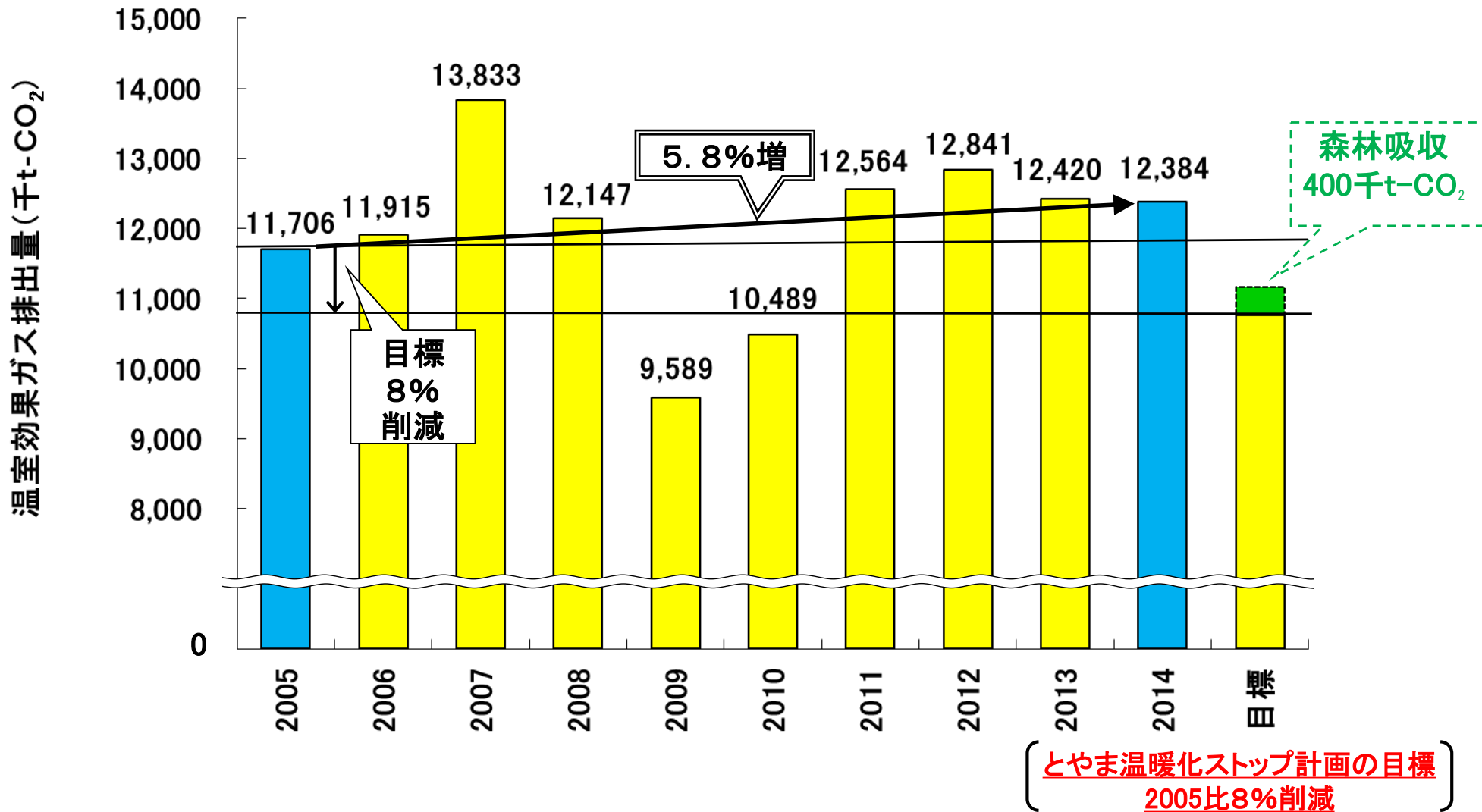
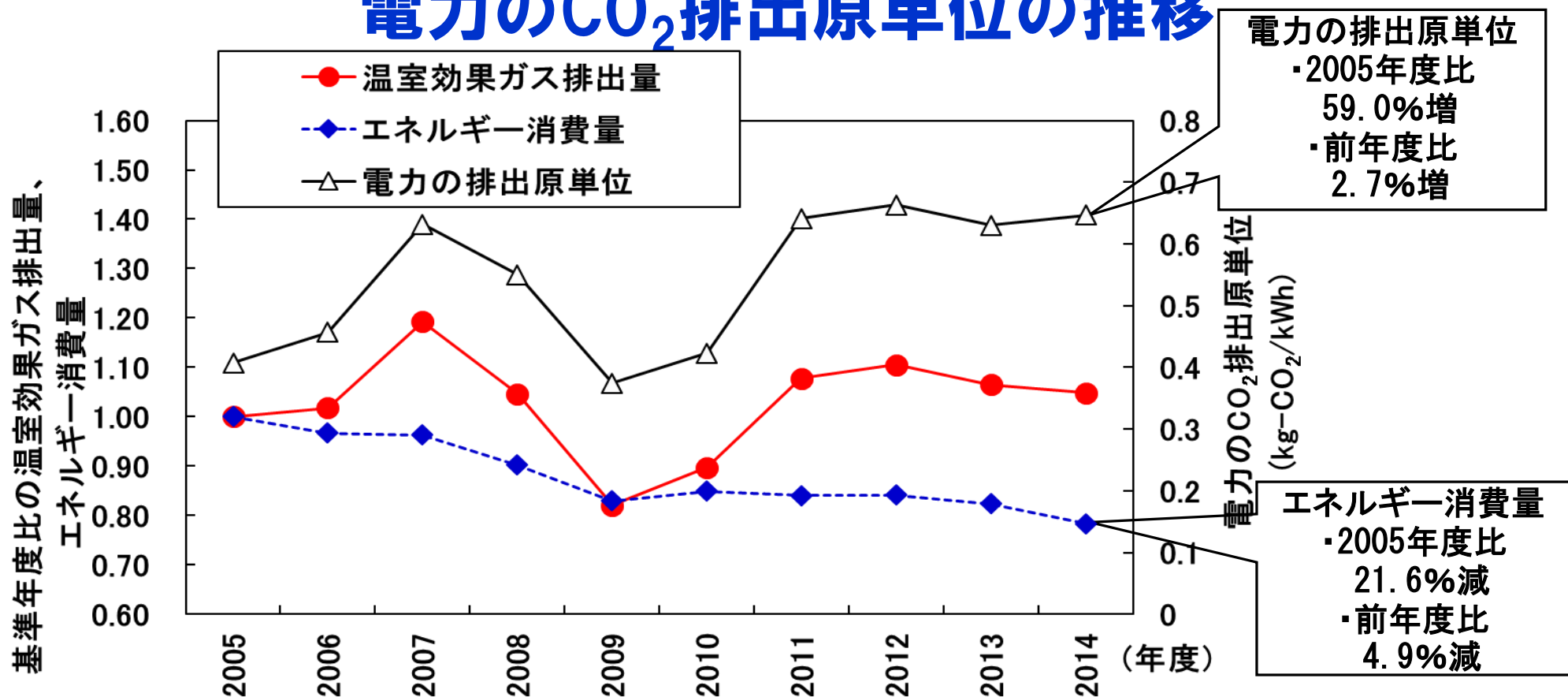


本県の温室効果ガス排出量の推移と削減目標

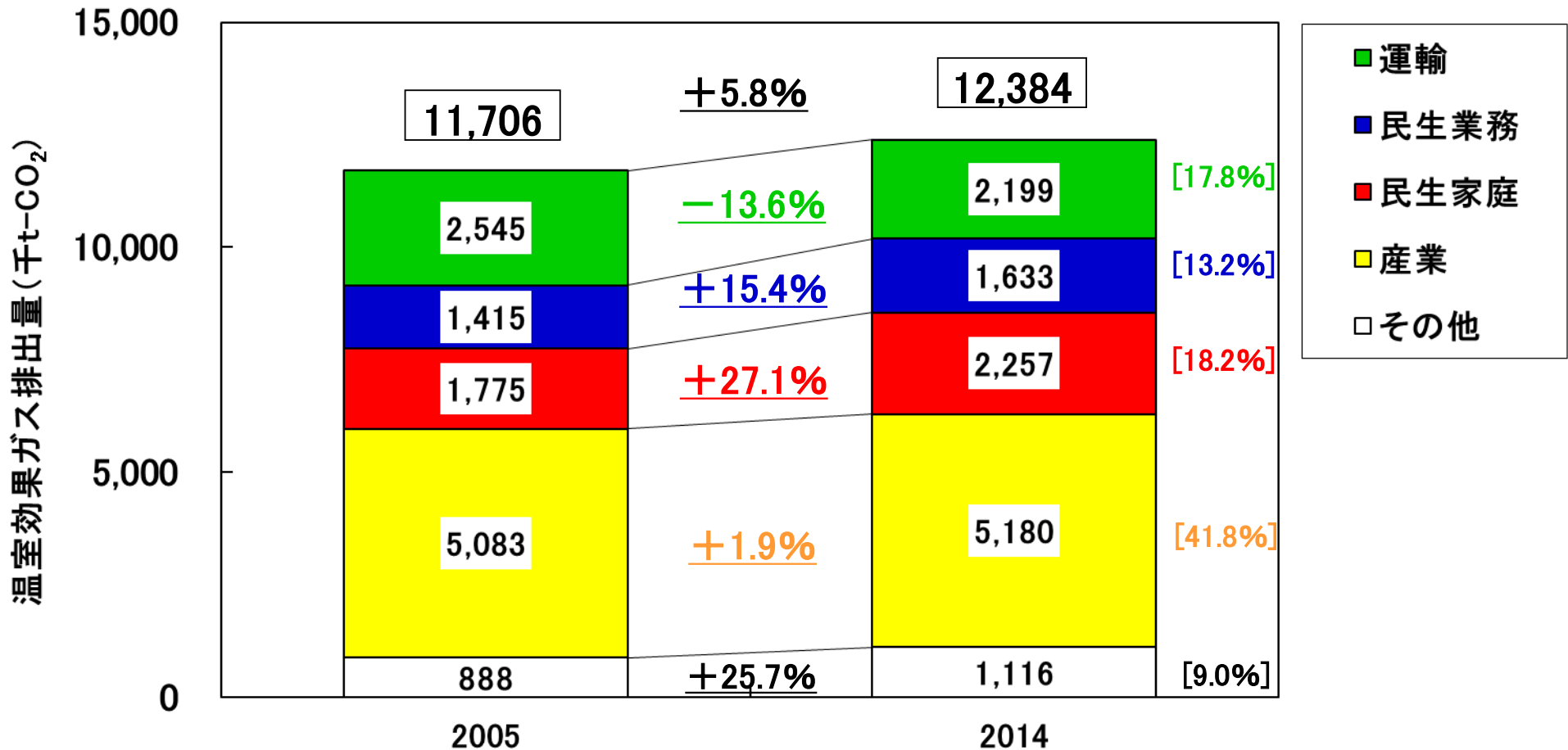


本県の温室効果ガス排出量、エネルギー消費量、 電力のCO₂排出原単位の推移



- ・ 2014年度の温室効果ガス排出量の基準年度からの増加要因として、電力のCO₂排出原単位の悪化が挙げられる。
- ・ 電力のCO₂排出原単位の基準年度からの増加は、東日本大震災を契機とした火力発電の増加によるものである。

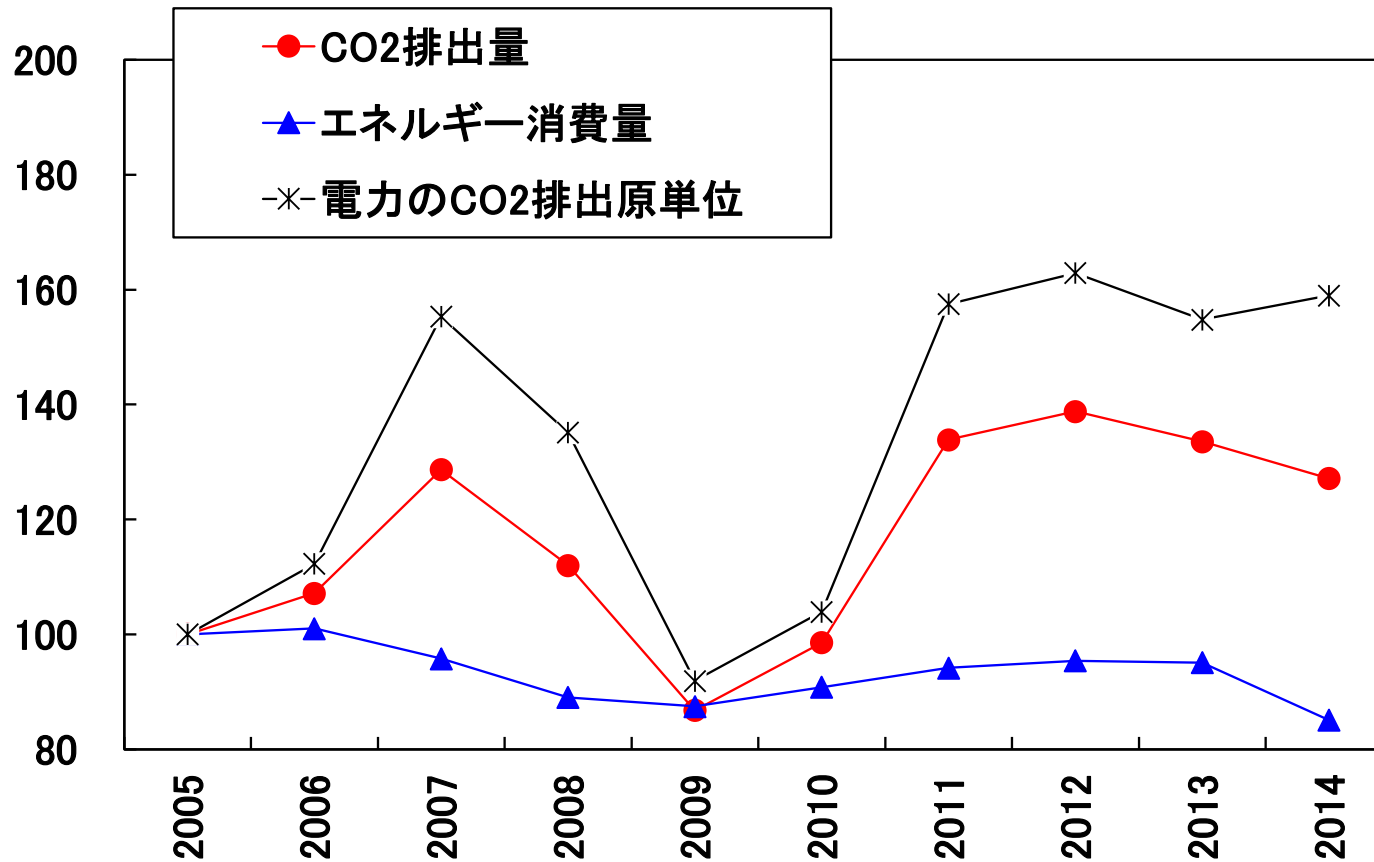
部門別の温室効果ガス排出量



- ①産業部門、民生家庭、民生業務で排出量が増加
- ②特に、民生家庭、民生業務での増加が大きい

民生家庭部門の状況（1）

図1. CO₂排出量、エネルギー消費量及び電力のCO₂排出原単位の推移（2005年度＝100）



- ・ 2014年度のCO₂排出量は2005年度比で27.1%増。前年度比では4.8%減少。
- ・ 前年度からの排出量の減少は、エネルギー消費量の減少によるもの。

民生家庭部門の状況（2）

図1. 富山県内の世帯数、人口等の推移
(2005年度=100)

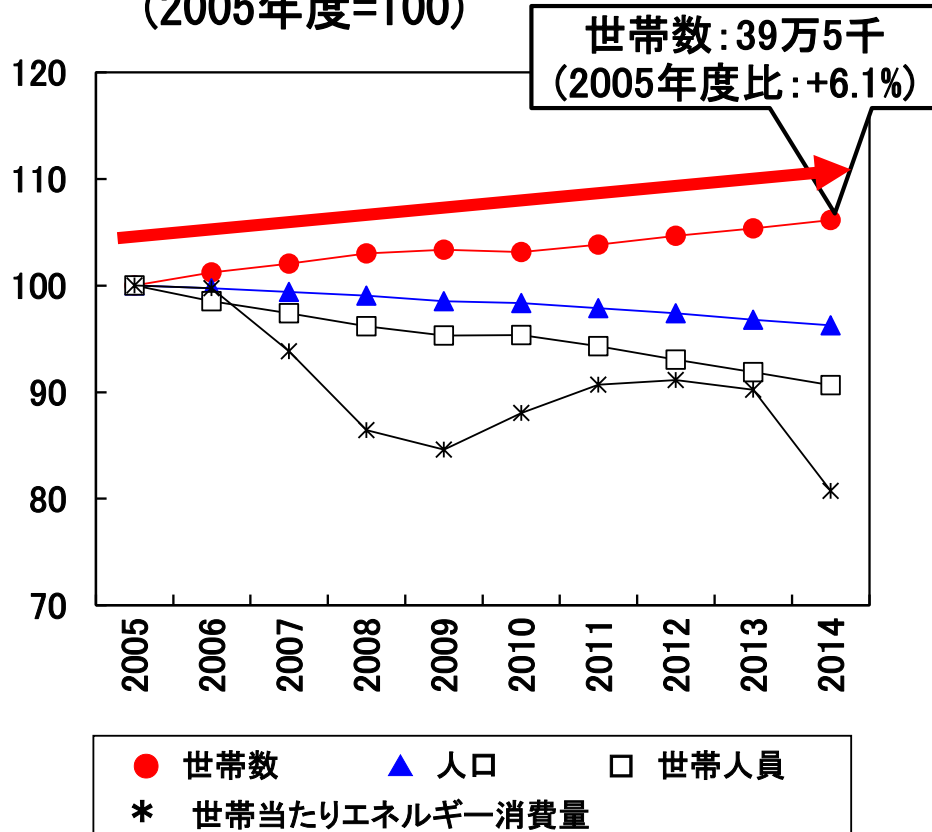
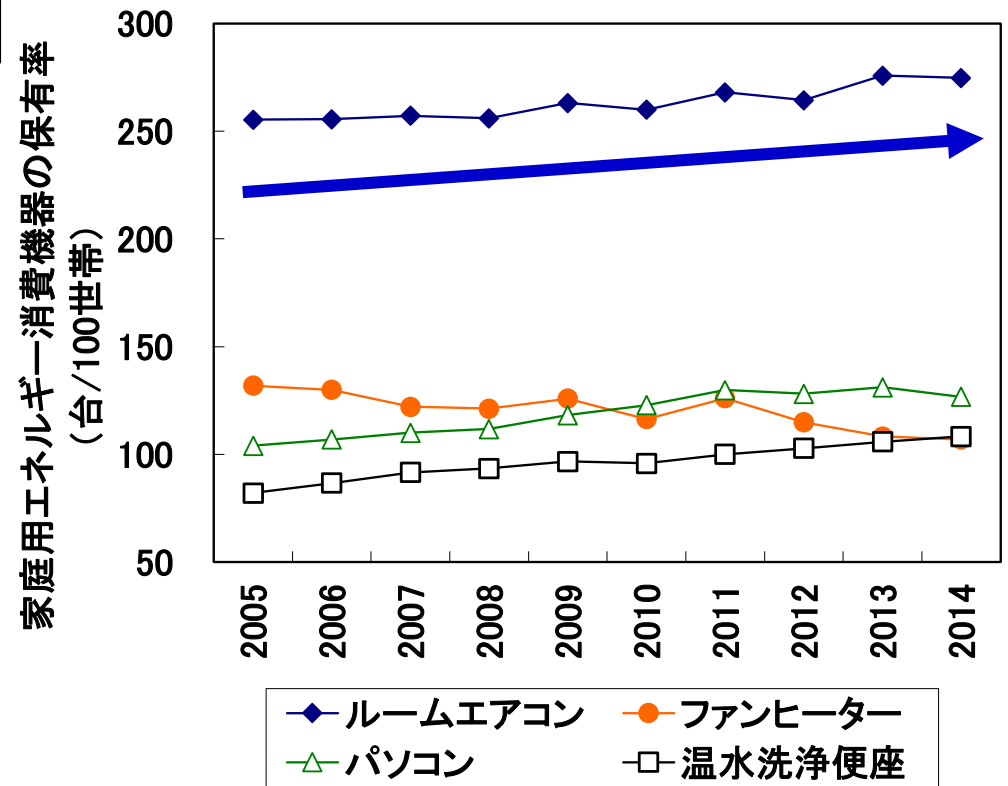


図2. 家庭用エネルギー消費機器の普及状況の推移



- ・ 2014年度のCO₂排出量が2005年度比で増加している主な原因は、①世帯数の増加や家庭用エネルギー消費機器の保有台数の増加により、電力等のエネルギー消費量が増大したこと、②電力のCO₂排出原単位が悪化したことが挙げられる。
- ・ 世帯当たりのエネルギー消費量は減少傾向にある。

民生家庭部門の状況（3）

図1. 種別のエネルギー消費量の推移及び構成

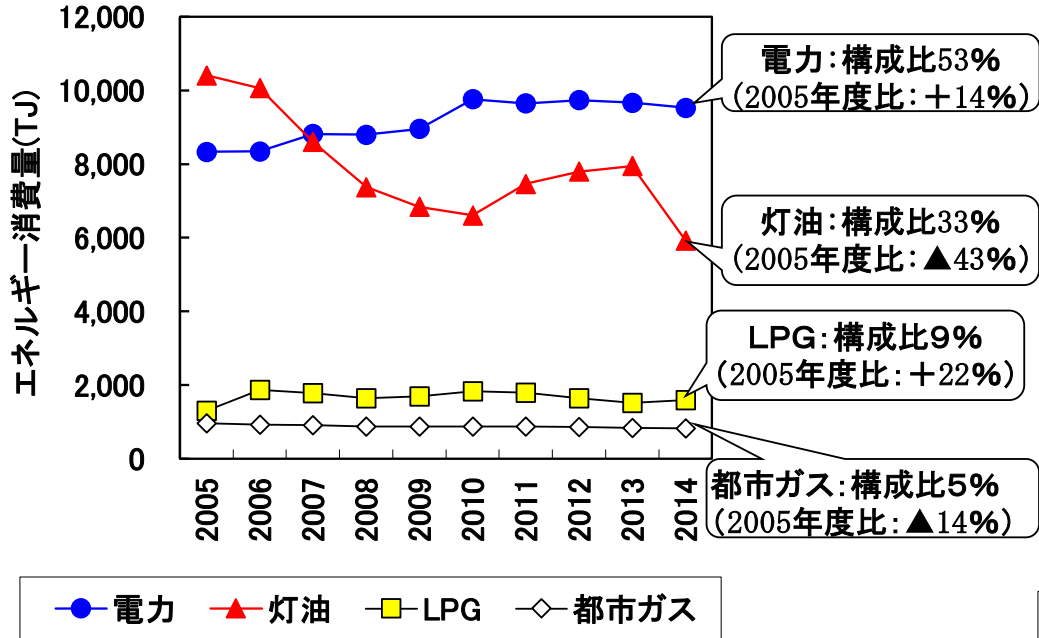
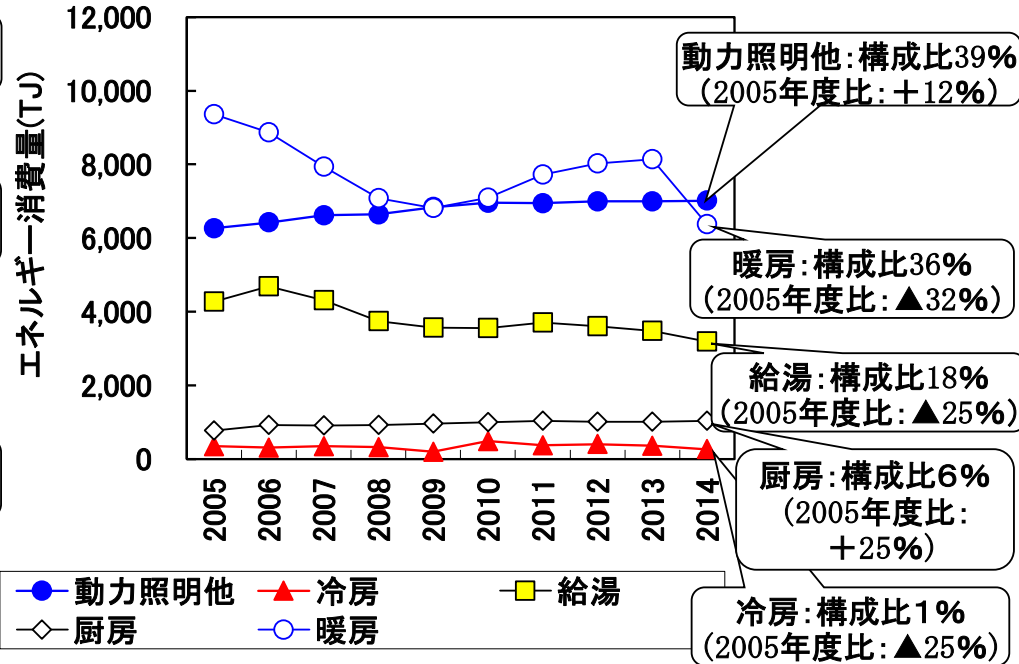


図2. 用途別のエネルギー消費量の推移及び構成



【エネルギー消費状況】

- ・ 2014年度の種別のエネルギー消費量の構成は電力、灯油が大きく、電力、LPGは増加傾向にある。(図1)
- ・ 2014年度の用途別のエネルギー消費量の構成は動力照明他、暖房、給湯の順に高く、これらを合わせて90%以上を占めている。(図2)

民生家庭部門の状況（４）

表 1. エネルギー消費状況の富山県と全国の比較（2014年度）

区分	世帯当たりのエネルギー消費量(GJ/世帯)										
	種別				用途別						合計
	灯油	LPG	都市ガス	電力	冷房	暖房	給湯	厨房	動力照明		
富山県	15.0	4.1	2.1	24.1	0.7	16.2	8.1	2.6	17.8	45.3	
全国	7.2	4.1	7.2	17.8	0.7	9.2	10.0	3.2	13.3	36.5	

富山県の方が24%多い

※ 一般財団法人日本エネルギー経済研究所からの提供資料を活用

※ 種別、用途別にその他を含まないため、合計値と一致しないことがある

表 2. 都道府県ごとの持ち家比率、住宅の広さ等

全国順位	持ち家比率	1住宅当たり延床面積 (専用住宅)	一戸建率
1	富山県 78.1%	富山県 150.1㎡	秋田県 81.0%
2	秋田県 78.0%	福井県 143.8㎡	山形県 79.8%
3	福井県 75.7%	山形県 138.8㎡	富山県 79.7%
4	山形県 75.0%	秋田県 136.6㎡	福井県 78.5%
5	新潟県 74.6%	新潟県 132.6㎡	青森県、和歌山県 76.8%
全国平均	62.3%	93.0㎡	54.9%

出典：平成27年国勢調査、平成25年住宅・土地統計調査

- ・ 暖房用途の世帯当たりのエネルギー消費量は全国平均を大きく上回っている。
- ・ 富山県は持ち家比率及び1住宅当たり延床面積が全国1位。

民生業務部門の状況（1）

図1. CO₂排出量、エネルギー消費量及び電力のCO₂排出原単位の推移

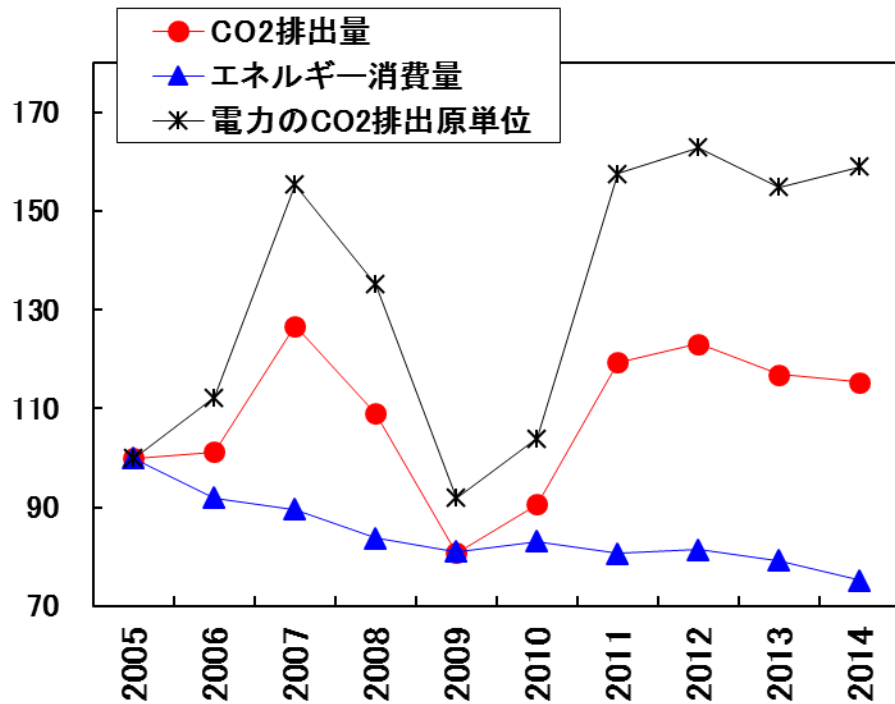
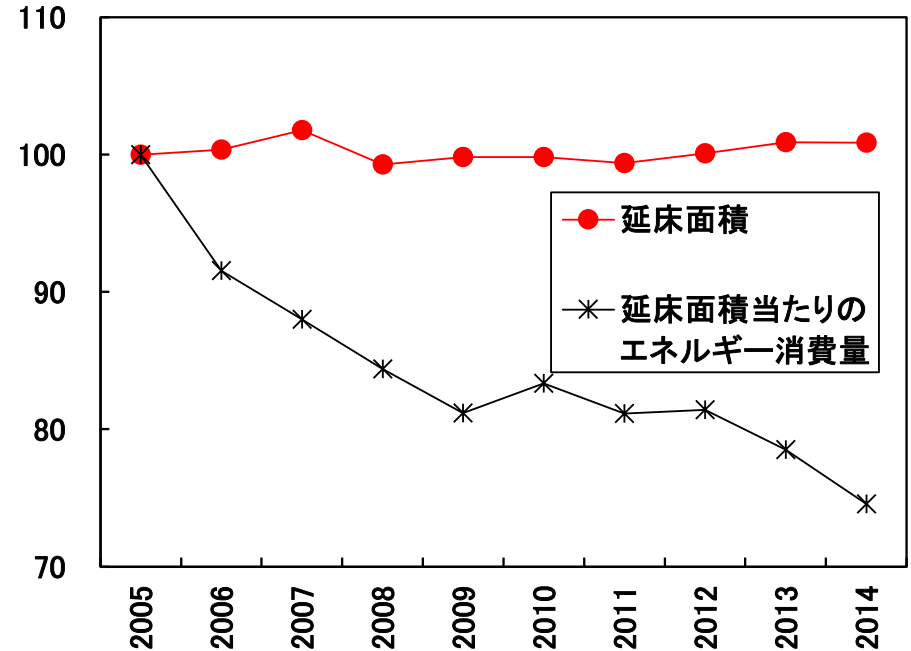


図2. 建築物の延床面積、延床面積当たりのエネルギー消費量の推移(2005年度=100)



- ・ 2014年度のCO₂排出量は163万t-CO₂であり、2005年度と比べると15.4% (22万t-CO₂) 増加した。この要因として、電力のCO₂排出原単位が悪化したことが挙げられる。
- ・ 前年度と比べると1.2% (2.0万t-CO₂) 減少した。これは、エネルギー消費量の減少によるものである。
- ・ エネルギー消費量及び延床面積当たりのエネルギー消費量は減少傾向にある。

民生業務部門の状況（2）

図1. 種別のエネルギー消費量の推移

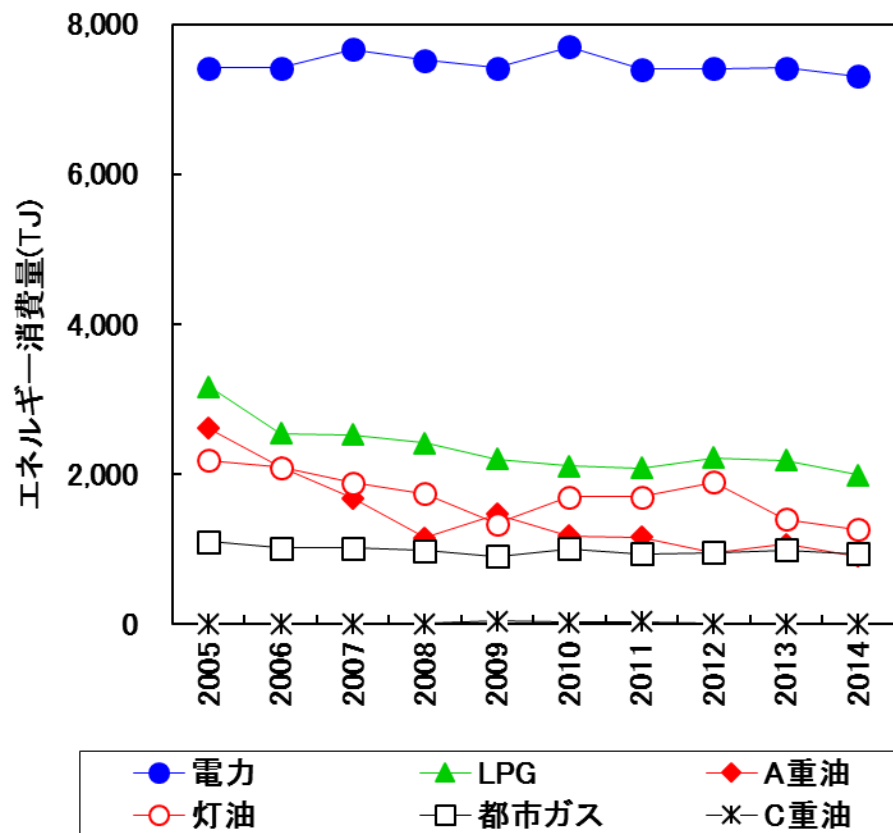
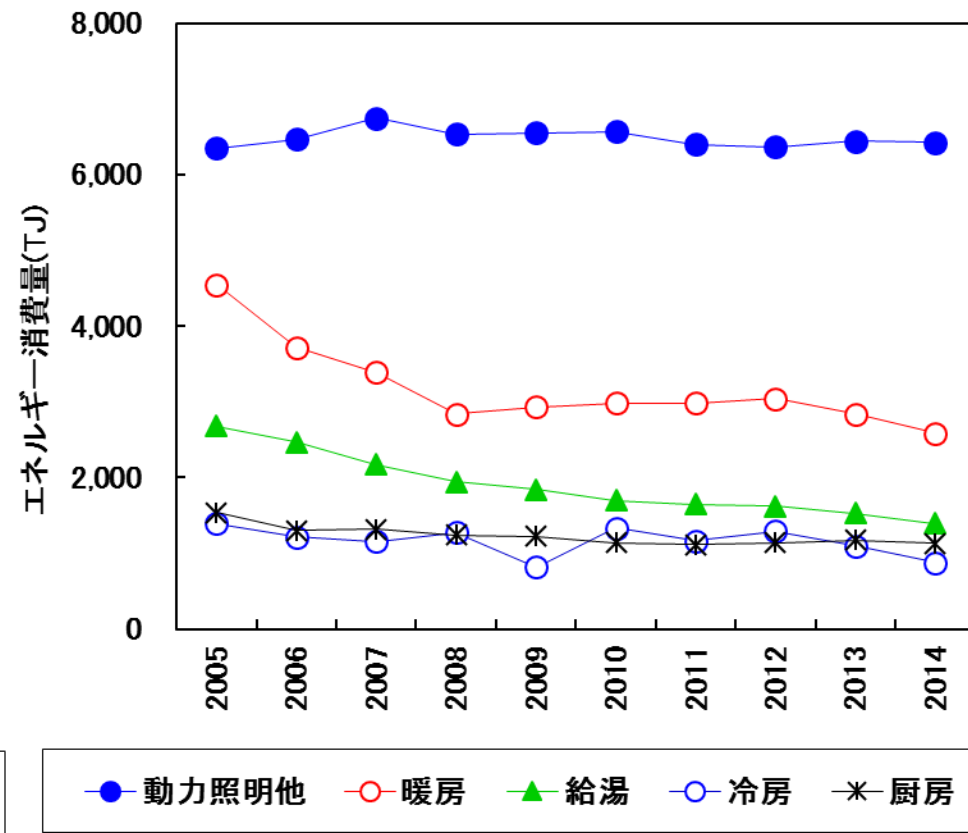


図2. 用途別エネルギー消費量の推移及び構成

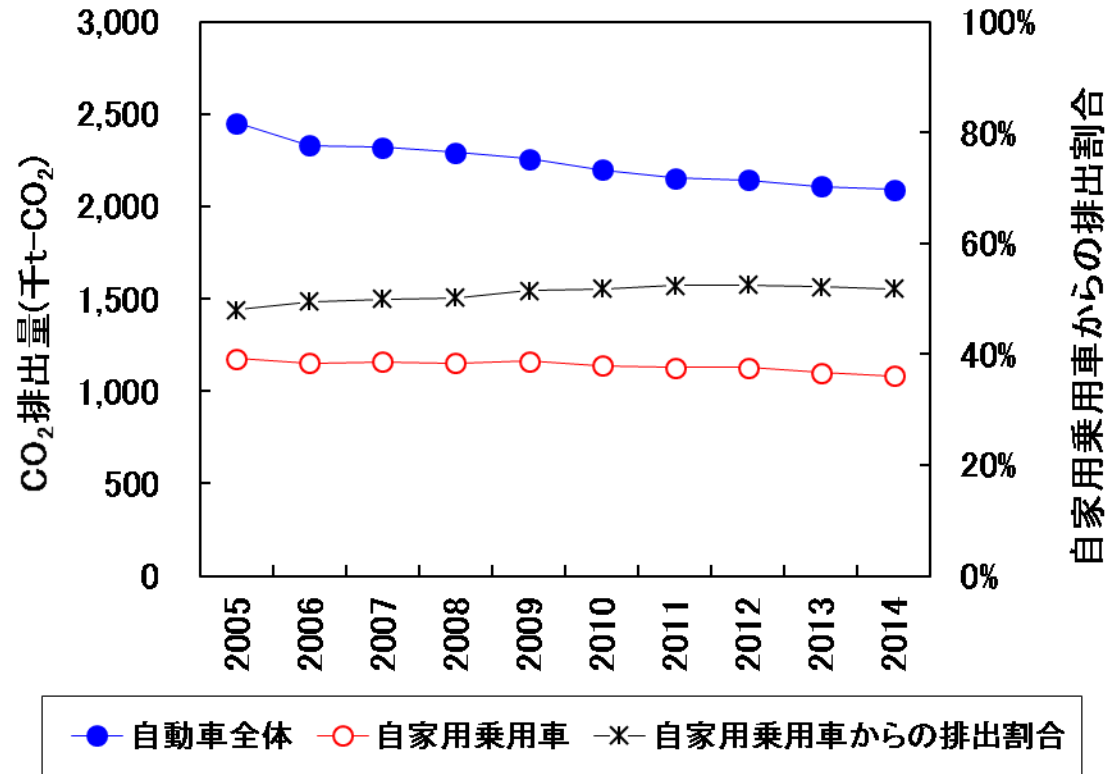


【エネルギー消費状況】

- ・ 2014年度の種別のエネルギー消費量の構成については電力が高く、5割以上を占めている。(図1)
- ・ 2014年度の用途別のエネルギー消費量の構成については動力照明他5割、空調3割と高く、暖房及び給湯は近年減少している。(図2)

自動車部門の状況（1）

図1. 自動車からのCO₂排出量の推移（自動車全体と自家用乗用車）



* 自家用乗用車に自家用の軽乗用車を含む。

- ・ 2014年度のCO₂排出量は209万t-CO₂であり、2005年度と比べると14.6% (36万t-CO₂) 減少
- ・ 前年度と比べると、0.7% (1.6万t-CO₂) 減少
- ・ 排出量は減少傾向

自動車部門の状況（2）

図1. 富山県内の自動車保有台数の推移

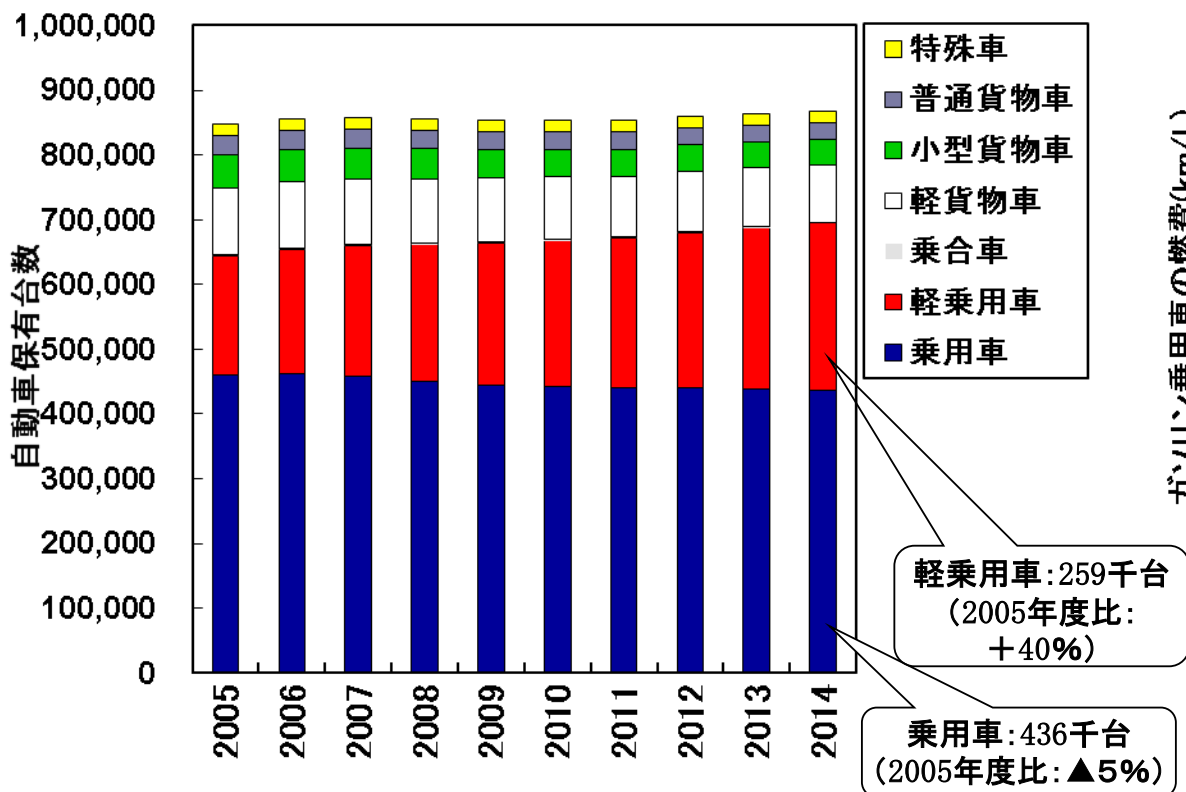
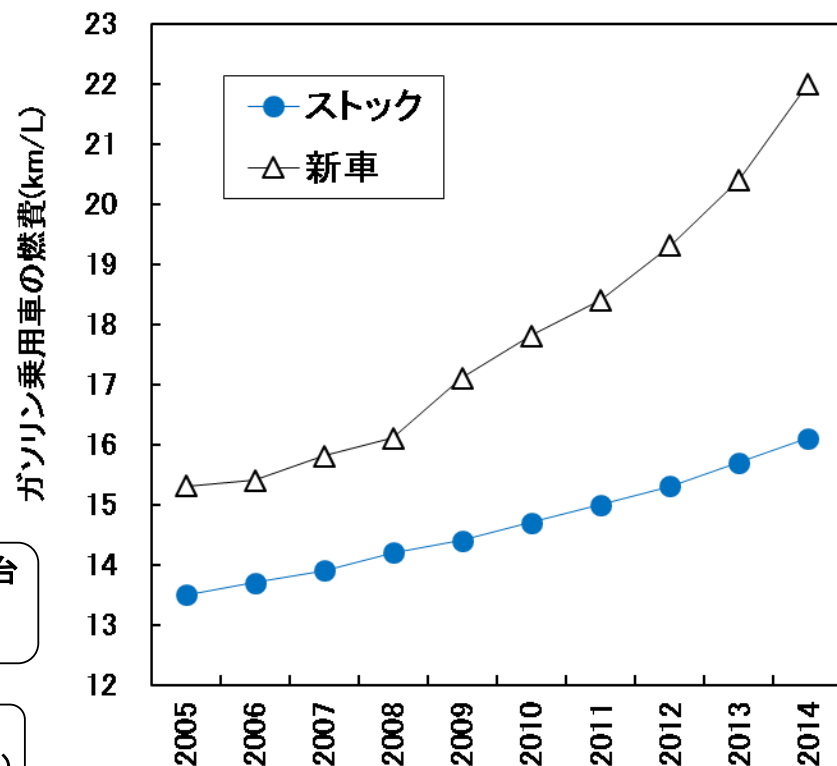


図2. ガソリン乗用車の平均燃費の推移 (全国値)

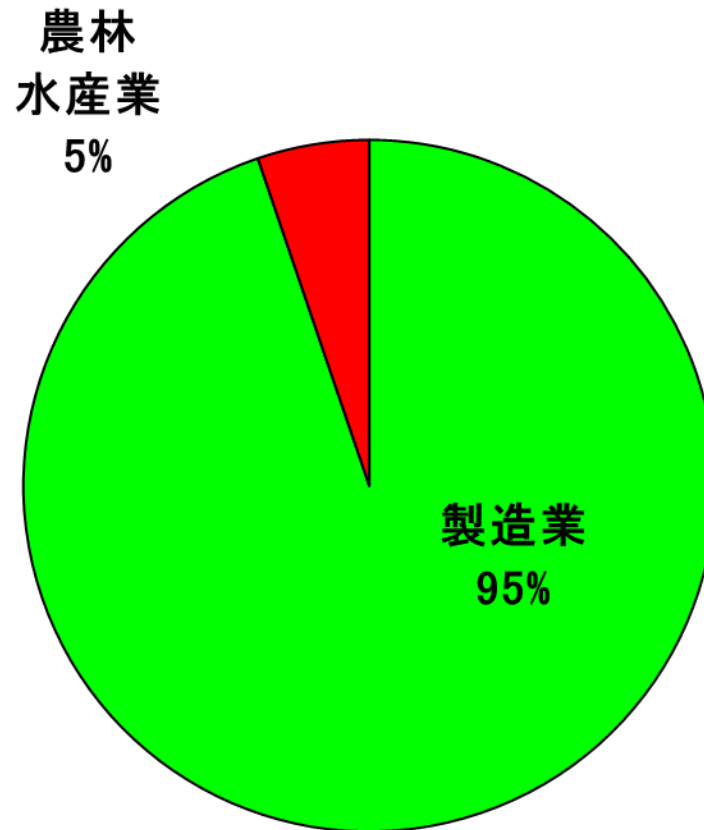


* 一般財団法人日本エネルギー経済研究所からの提供資料を活用

CO₂排出量が漸減傾向にある主な原因は、①自動車保有台数が頭打ちにあること、②ガソリン乗用車の燃費が改善傾向にあること

産業部門の状況（1）

図1. 産業部門における業種別CO₂排出量の内訳（2014年度）



2014年度の産業部門におけるCO₂排出量のうち、製造業の排出量が95%を占めている。

産業部門の状況（2）

図1. 製造業におけるCO₂排出量、エネルギー消費量及び電力のCO₂排出原単位の推移
(2005年度=100)

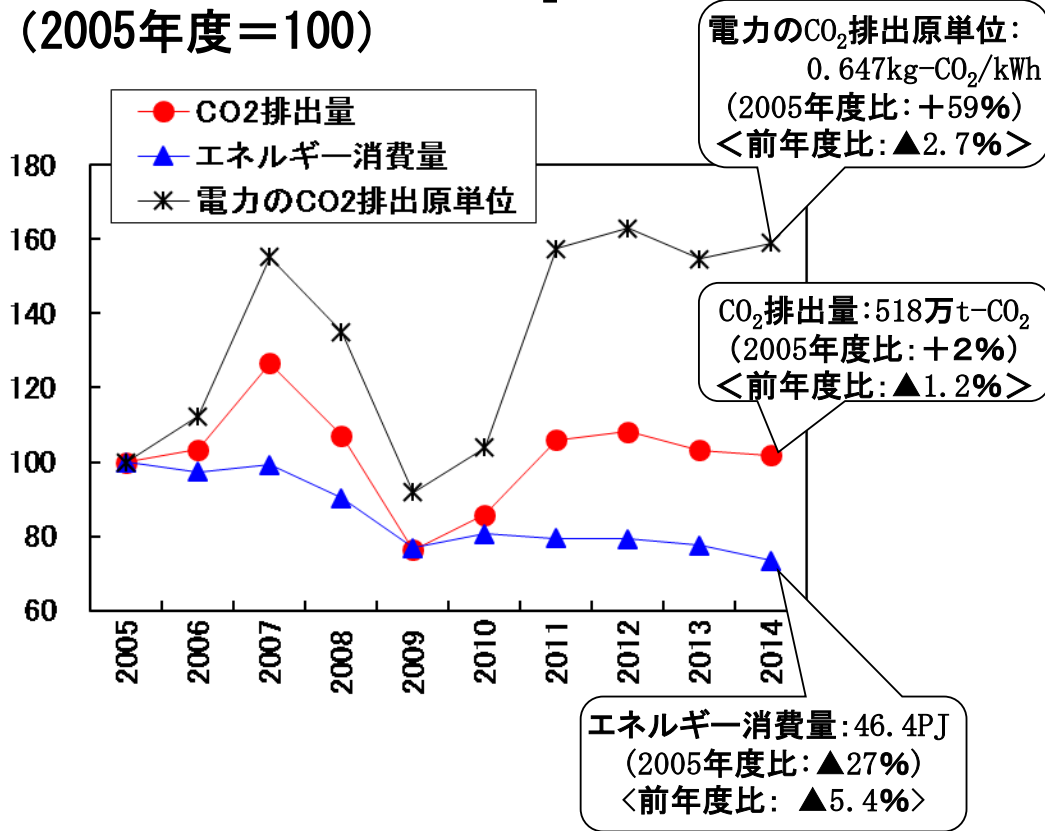
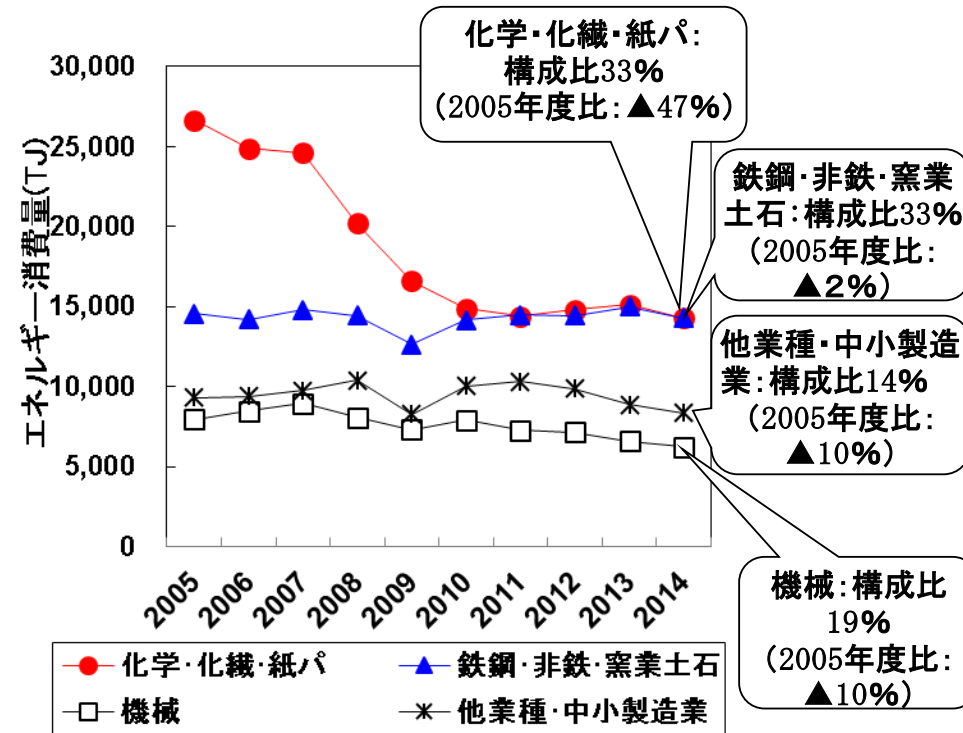


図2. 製造業における業種別のエネルギー消費量の推移



- ・ 製造業における2014年度のCO₂排出量が基準年度から増加しているのは、電力のCO₂排出原単位の悪化によるものである。
- ・ 前年度からの排出量の減少は、エネルギー消費量の減少によるものである。

その他部門の状況

図1. 温室効果ガスの種別の排出割合 (2014年度)

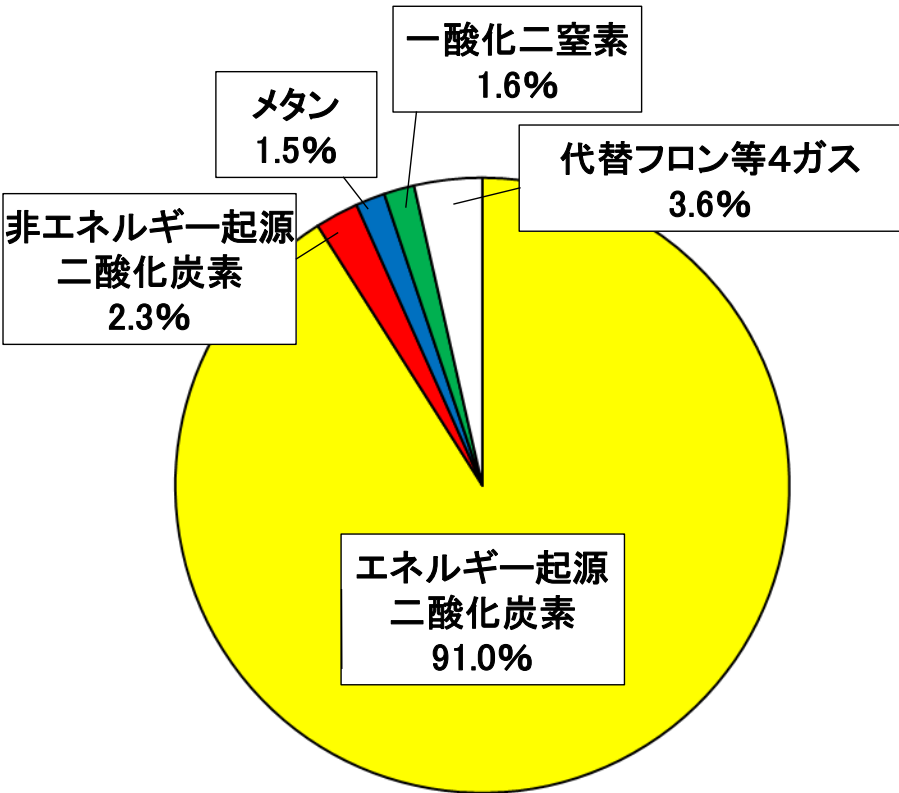
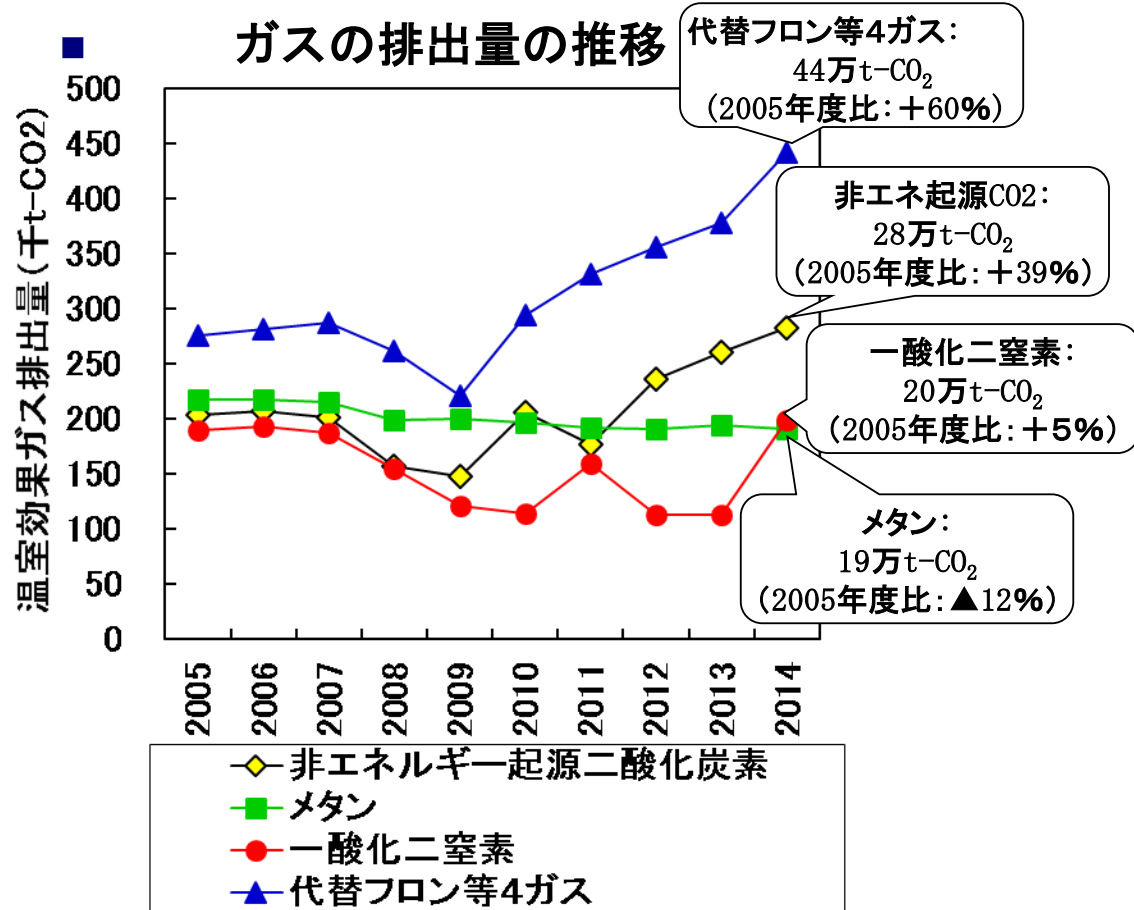


図2. エネルギー起源CO2以外の温室効果ガスの排出量の推移



- 2014年度の温室効果ガス排出量の排出量の9割以上をCO₂が占めている。
- 近年、代替フロン等4ガスの排出量が増加しており、その要因はハイドロフルオロカーボン (HFC) の排出量の増大によるものである。